

令和2年度第2回地区別需給情報連絡協議会 アンケート結果 【東北地区】

目次

0. 業種・回答数	1
1. 木材（苗木）需給動向について	2
(1) 素材生産事業者	2
(2) 木材加工事業者（製材、集成材、合板・LVL・チップ）	7
(3) 木材流通事業者（市場、商社）	9
(4) 木材利用事業者（建設、製紙・パルプ、木質バイオマス発電）	12
(5) 苗木生産事業者	13
(6) 事業者団体（自ら生産・販売を行っていない場合）	14
(7) 森林整備センター 東北北海道整備局	15
(8) 東北森林管理局	15
2. 需給ギャップの解消について	16
(1) コロナ禍による影響について、事前にどのような情報があれば、小さくできたと考えるか	16
(2) 需給ギャップ解消のための提案・要望等	18
3. 協議会の活動について	20
(1) 開催の頻度・タイミング	20
(2) 情報提供の内容（国からの木材需給動向・支援策、構成員からの需給情報等）	20
(3) 協議会活動に関する意見（どうすればより役立つ協議会となるか、など）	20
(4) 支部別協議会（又は類似の会議）の令和2年度4月以降の開催情報	21
(5) オンライン回答（Google Forms を使用）の使い勝手	22

0. 業種・回答数

【業種】	【回答数】
素材生産事業者	7
木材加工事業者（製材、集成材、合板・LVL、チップ）	9
木材流通事業者（市場、商社）	6
木材利用事業者（建設、製紙・パルプ、木質バイオマス発電）	3
苗木生産事業者	2
事業者団体（自ら生産・販売を行っていない場合）	4
森林整備センター	1
森林管理局	1
県	5
計	38

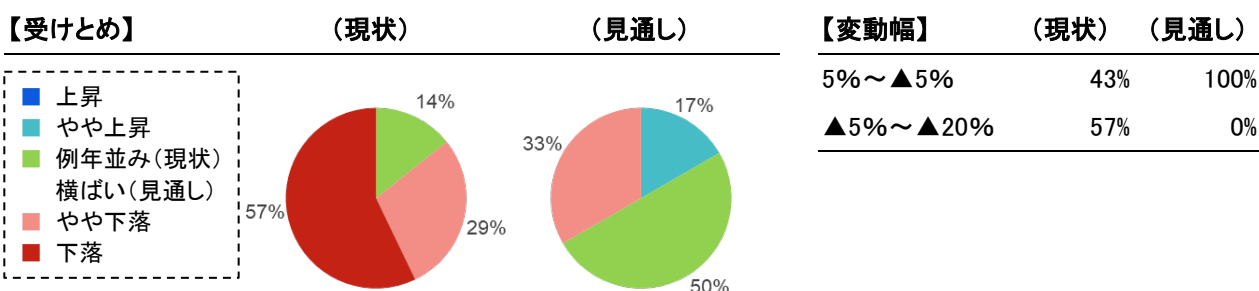
1. 木材（苗木）需給動向について

<グラフ及び表の凡例>

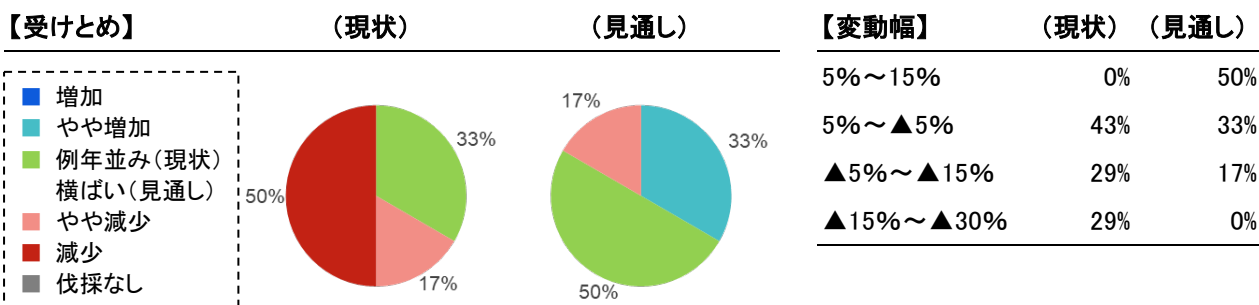
- 【受けとめ】 : 現状及び見通しに関する定性的な変化の感覚
- 【変動幅】 : 現状及び見通しに関する定量的な変化の幅
- (現状) : 例年(過去3年間の12月の平均)と比べた現在の状況
(※苗木については、今年の秋植のための苗木出荷量について前年同時期との比較)
- (見通し) : 現状と比べた今後3か月間(令和3年1~3月)の見通し
(※苗木については、今年の春植のための苗木出荷量について前年同時期との比較)
- % : 回答数割合(無回答の場合は母数に含めない)

(1) 素材生産事業者

① 原木販売価格

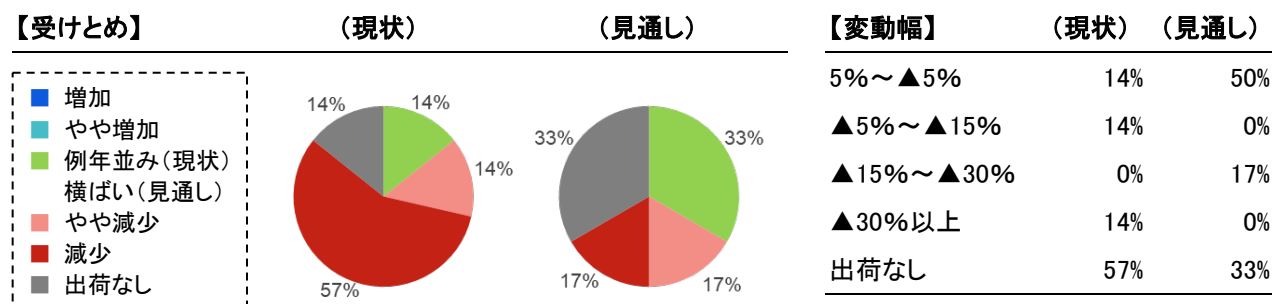


② 伐採量

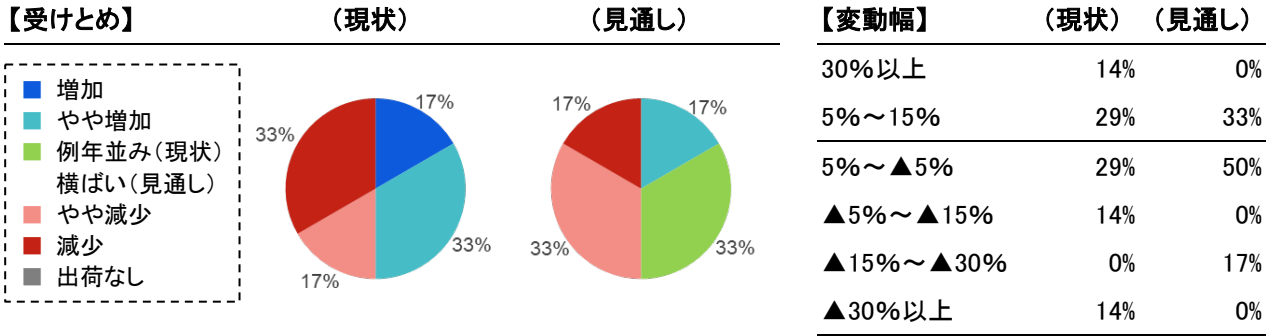


③ 出荷量

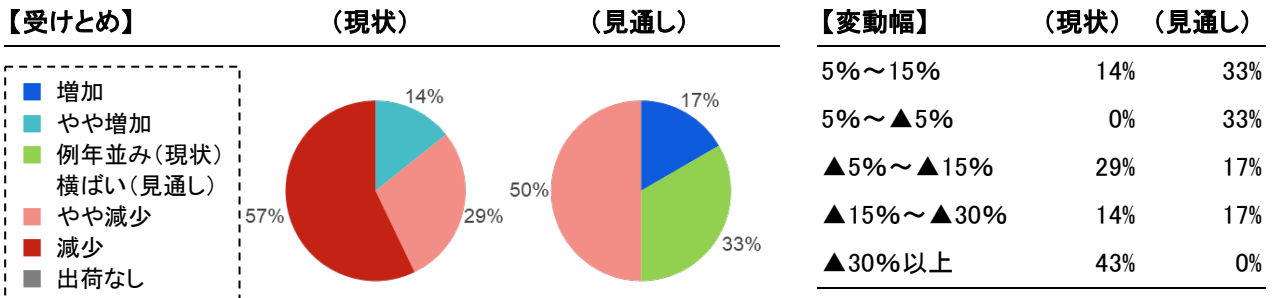
(ア) 市場向け



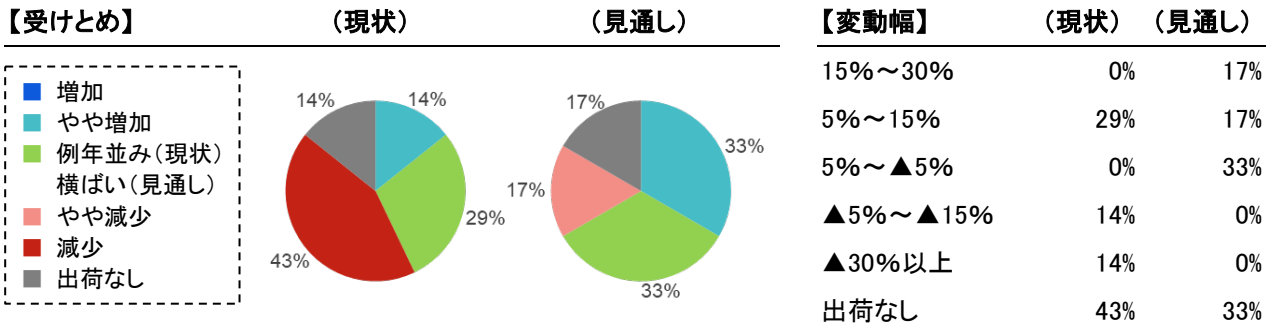
(イ) 製材向け(直送)



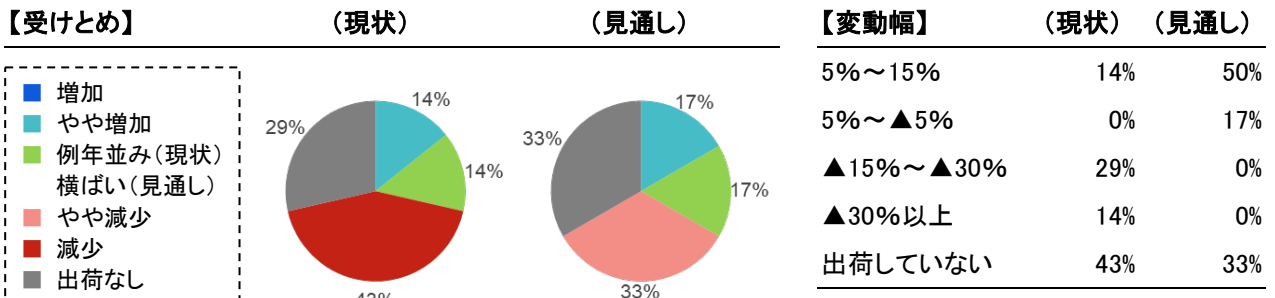
(ウ) 合板・LVL 向け(直送)



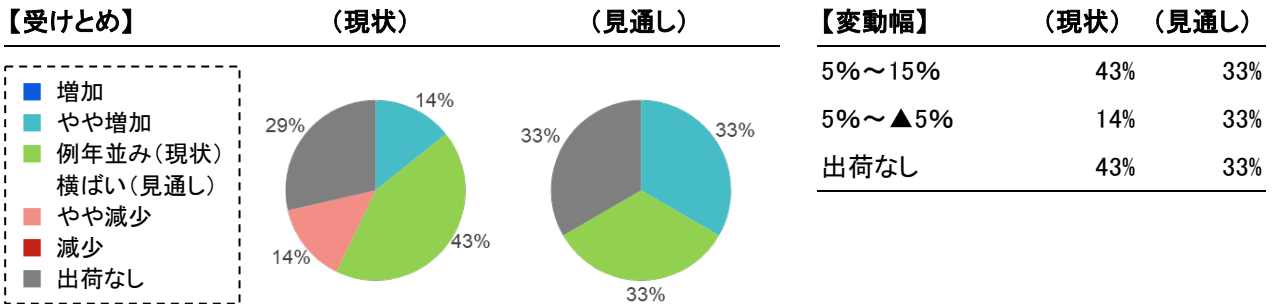
(エ) 集成材向け(直送)



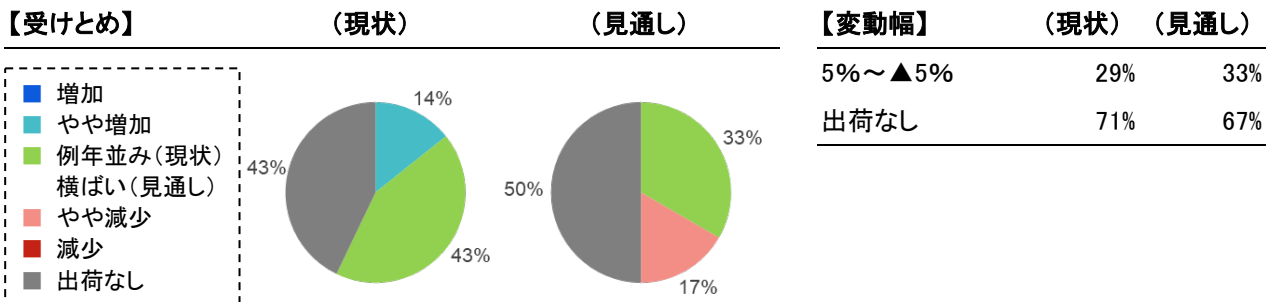
(オ) パルプチップ向け(直送)



(カ)木質バイオマス発電向け(直送)(間伐材等由来)



(キ)その他(直送)(ほだ木、おが粉、薪など)

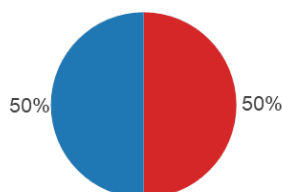


(ク)備考

- コロナウイルス感染症の影響で、6~9月までは、出荷量が大幅に減少した。この対応として、用材(A・B材)に出荷できなかった代替としてバイオマス用に出荷した。素材生産者は、利益が損なわれた。又、針葉樹用材が販売できなかったため、広葉樹チップ材の生産に切り替えて、労働者の解雇をしないように取り組んだ。針葉樹の伐採から広葉樹に切り替えたために、せっかく高性能林業機械を所有していても、稼働が大幅に低下した。販売価格の低迷及び販売数量の減少が来年も続く素材生産者の事業継続が懸念される。
- 市場向け:工場からの注文が多く市場に並べている余裕が無い。パルプ用の受入が少ないので、広葉樹林の伐採が進んでいない。広葉樹・杉・唐松の需要は増えるが、赤松の需要は徐々に減ってくる。
合板・集成材向け:夏場に原木在庫を激減させたため消費量以上に原木を必要としている。既に製品注文も2月頃までである。春先までは需要はほぼ安定という見込みとなっている。
パルプチップ向け:広葉樹チップの輸出が回復しない限り、広葉樹林の伐採が進まない。
バイオマス向け:夏季に合板用までも入荷したため土場の在庫はこれまでにない状況。
- 素材の出荷量について、4月まではほぼ前年並みで推移したが、5月から10月までの間4割の制限となった。特に8月については、5割の制限となり大変厳しい状況となっている。
- 合板各社は生産調整を継続。製材所は在庫確保になっている。
- 原木消費の増減に伴い、生産量を短期間に調整することは困難である。消費が回復しても素材生産業者は早急に対応できないことから、数ヶ月間は原木不足となると考えている。また、原木消費の先行きが不透明なことから、現時点では生産量の増産は見込めない状況。
- 年度末に合わせて補助事業を完了させるため、駆け込みでの生産事業が見込まれる。

④ 出荷先やニーズの変化

【変化の有無】



【具体的な内容】

- 合板材に関しては、2.0m材の出荷割合の増加の要請があった。それによりB材としての4.0m材の出荷先の確保ができなかった。また販売する木材の径級も、販売単価の関係で18cm以上に切り替えた。
- 合板材・集成材ともに、夏場の出荷数量が極端に減少した。(現在、合板材はほぼ従前並みに回復した。また集成材も前年度より出荷量が増加している現状である。)
- 2m、4m、3.65m、3mなどの普段流通している通常サイズのもの以外の問い合わせが増えている。
- 歩留まりが上がるよう、納入サイズや原木品質の規格制限が厳しくなっている。"
- 合板材2m材は、出荷制限を受けたほか、販売単価が1割減となった。

⑤ 関連情報、意見など

【現在の状況に関連した情報、意見など】

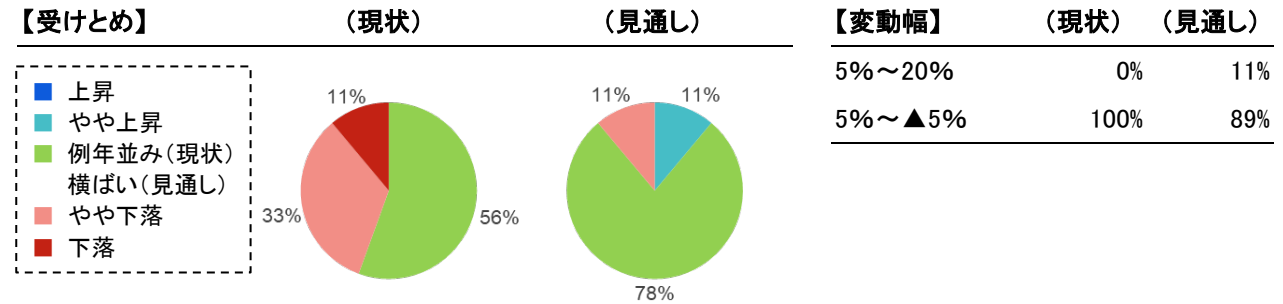
- 出荷先との連絡・打ち合わせを密にして、可能な限り先行きの情報を提示してもらい、素材生産者にその情報を提供して対応している。現状では大きな懸念材料はない。
- 今期はコロナの影響で、県内や隣県の大型工場は夏場に原木在庫を減らす動きをとってきた。その為、林業者も間伐や保育に作業者を配置し、なるべく生産量を抑えて事業経営が成り立つよう努力してきたので、急な需要増に原木生産者が追いつけない状況となっている。大型工場もこの夏は2週間先さえ分からない状況が続いていたので、前もって原木利用量を林産者へ知らせることが出来ないまま、今の原木不足の状況となり、慌てて集荷している。「輸出原木保管等緊急支援事業」もあったが、夏季は合板や製材用の原木の劣化が激しいので、合板・製材向けとしては利用出来ない。現在、緊急支援で貯めた原木を製材している工場は歩留まりの悪さに困っている。生産量を激減させず、急な原木需要に対応する為には原木の価値が下がった価値を補てん出来る補助が必要だったと思う。
- 国産材の消費率をもっと上げてほしい。未だに輸入広葉樹パルプは国産広葉樹パルプに比べはるかに多く消費しており、住宅部材に関してもまだまだ国産材の利用量を増やせるマーケットがある。また、文化財の修復や改修が少ないため、役物の流通が非常に鈍い。高齢級の良質材に相当の価値が付かない。
- 集成材工場の納入状況の回復が遅い。
- 11月まで素材生産の生産調整を行ってきた関係から、12月以降素材原木の在庫量が大幅に減少し、需要が回復してきているが、11月までの生産調整の影響で一般材、合板材が不足している状況。木質バイオマス原木については、出荷増となっている。
- 昨年末からの雪の影響で林産事業の遅れが見られる。

【今後の見通しに関連した情報(判断材料)、意見など】

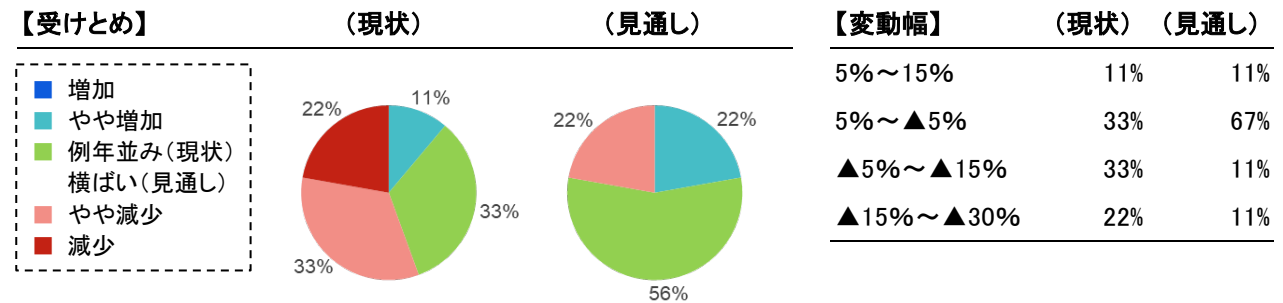
- 今年の木材の販売数量は、先行き見通しができない中での対応であり、販売先も苦労されたことは理解できる。今後可能な限り3~6か月先の受入数量の提示があれば、素材生産者側も、予定が組みやすく安心できる。その情報を基に、針葉樹材から広葉樹材への切替準備もできる。
- これまで原木在庫が十分に有る事で、冬季の流通の不安定なところをカバーしてきたが、現在は原木在庫を十分に蓄えている工場はほぼ無いため、どこの大型工場も余裕が無い状況。原木生産を工場の消費にリアルタイムで合わせる事はほぼ無理な季節なので、春までは余すことなく原木を流通できると予測している。
- 新型コロナウイルス感染症が収まっても、現状では、出荷量は前年並みに回復することは困難と考える。今後、素材の受け入れ先の確保が大きな課題である。
- 材不足の影響は暫く続くと思われる。製品市況の低迷から原木価格はほぼ横ばいで推移と思われる。

(2) 木材加工事業者(製材、集成材、合板・LVL・チップ)

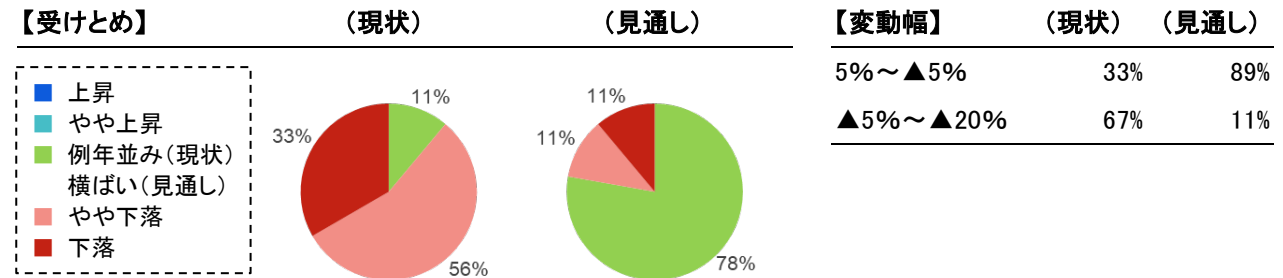
① 原木調達価格



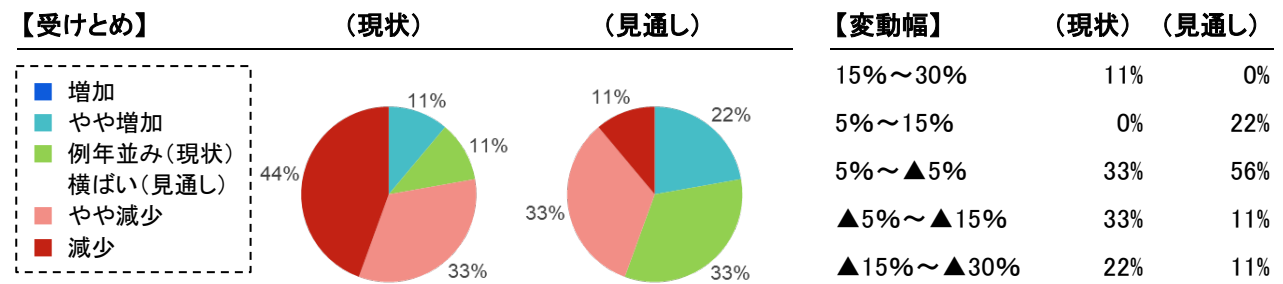
② 原木調達量



③ 製品販売価格



④ 製品販売量



⑤ 出荷先やニーズの変化

【変化の有無】



【具体的な内容】

- 輸出向けの引き合い増加している。
- コロナ感染症の拡大により経済活動が抑制され、テレワーク、オンライン等ますますペーパーレスに拍車をかけているため、製紙会社は需要の減退により減産を強いられている。
- 岩手県の昨年の製紙用チップ出荷実績は4月から12月までの対前年比累計比では針葉樹78%、広葉樹59%、計67%と大幅な減少になっている。

⑥ 関連情報、意見など

【現在の状況に関連した情報、意見など】

- 住宅向けの木材製品需要が回復してきたが、原木の供給が追い付いてこない。原料高の製品安の状況に陥り、採算的には厳しい状況が当面続きそう。
- 新型コロナウイルス過に伴う製紙の販売不振となっている。
- 林野庁の新型コロナウイルス感染症対策の補正予算で、停滞した木材の利用促進や原木の保管費用を支援する「過剰木材在庫利用緊急対策事業」「輸出原木保管緊急支援事業」が効果的だったため、是非、継続してほしい。
- 現在のチップ生産量では採算割れであるため国、県、市町村の支援制度を活用し、経営の維持を図っている。

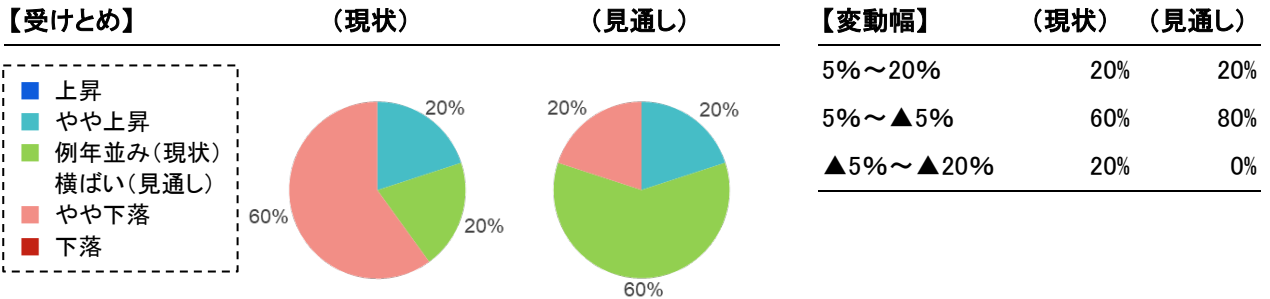
【今後の見通しに関連した情報(判断材料)、意見など】

- ビルダークのPC工場への発注は、3月決算に向け、1月をピークに3月までは堅調に推移する見込み。
- 現在のところ製品販売量は回復してきているものの、先行き不透明感は依然として続いており、2ヶ月以上先は全く読めない状況である。
- 新型コロナウイルス感染症拡大に伴い、今後、テレワークにより自宅などの仕事が増えることで、作業環境を整えるリフォーム需要やテレワークの進展に伴い都市部の郊外、地方の仕事場が創出されることによる新たな木材需要に期待している。
- 原木の安定確保が困難である。
- 国有林の針葉樹低質材落札価格は令和2年対平成24年比では全樹種とも300%から700%の大幅な値上がりであり、チップ生産業者で原材料として利活用できない。
- 現在は製品在庫が少ない状況だが、今後コロナ禍の影響がどのように製品市況に出てくるか判断が難しい。

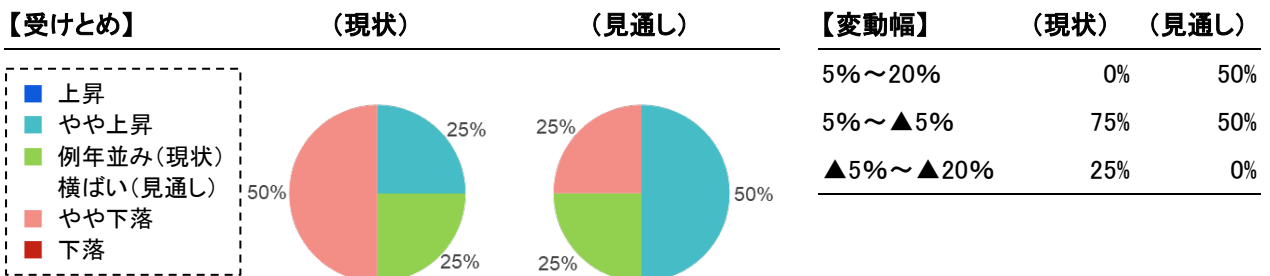
(3) 木材流通事業者(市場、商社)

① 調達価格(買取の場合)

(ア) 国産原木

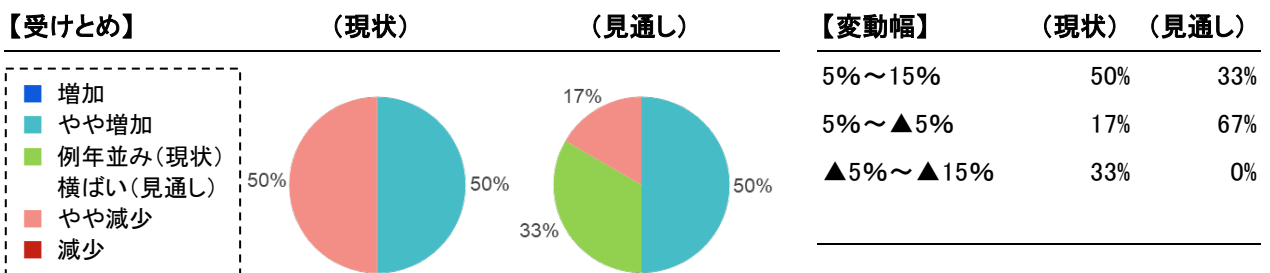


(イ) 国産材木材製品

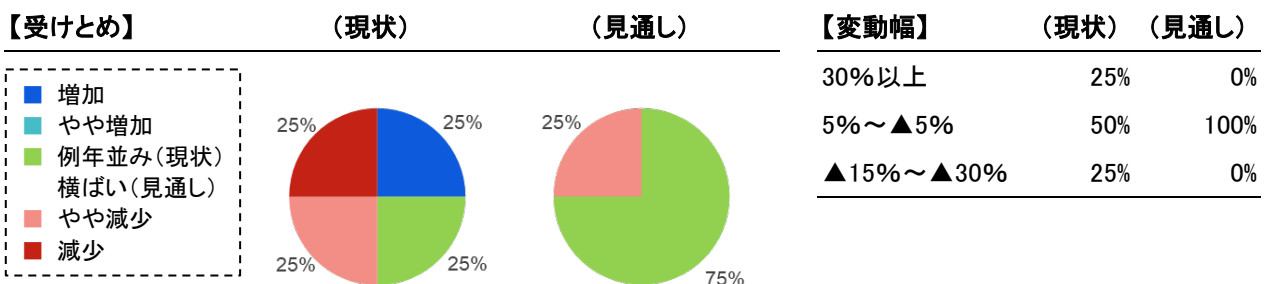


② 集荷量

(ア) 国産原木

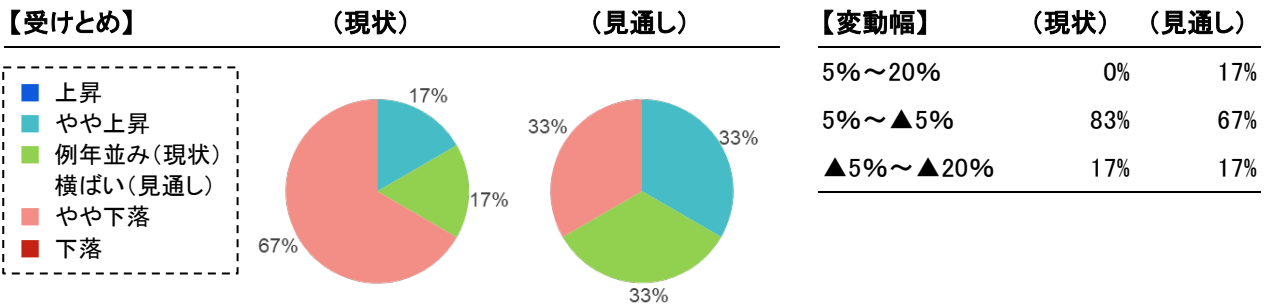


(イ) 国産材木材製品

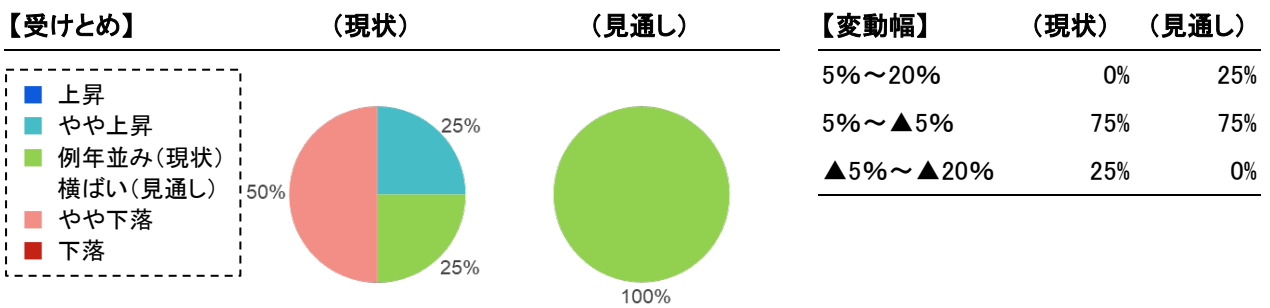


③ 販売価格

(ア) 国産原木

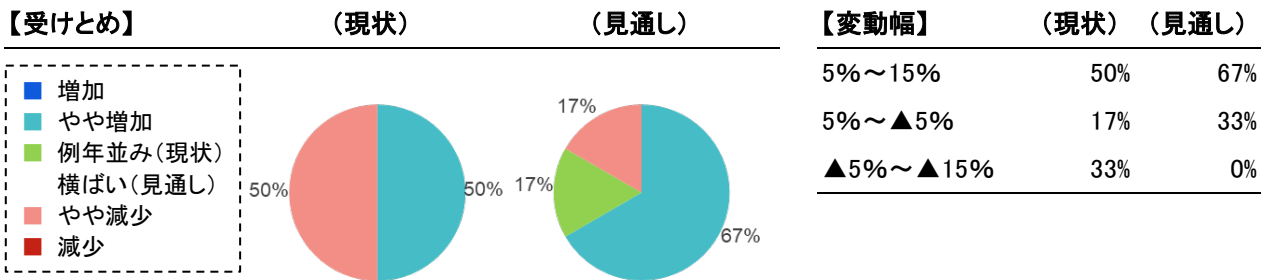


(イ) 国産材木材製品

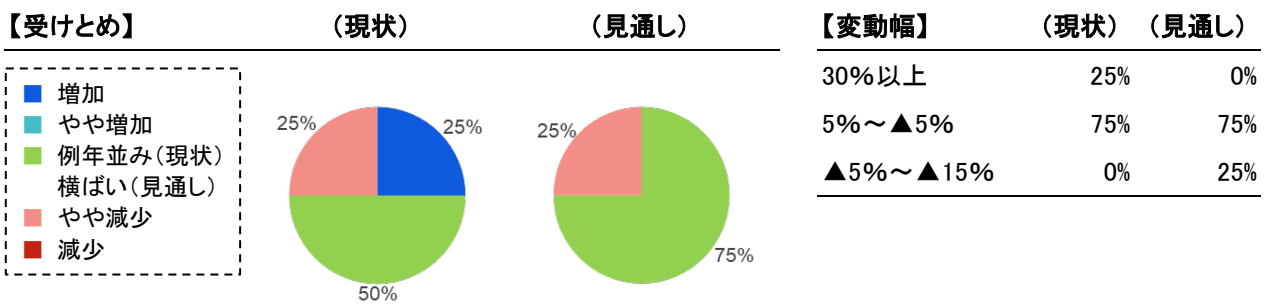


④ 販売量

(ア) 国産原木

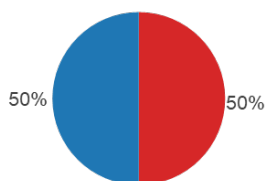
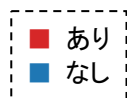


(イ) 国産材木材製品



⑤ 出荷先やニーズの変化

【変化の有無】



【具体的な内容】

- 販売先のニーズに変化があり、今年は特にアカマツ(合板用・製材用)と杉(製材用)の販売量が伸びた。
- 構造材に集成材が増えてきた。羽柄材に杉材が増えてきた。広葉樹原木の取り扱いが増えた。
- 製紙用原木の減によりバイオマス原木が増加している。

⑥ 関連情報、意見など

【現在の状況に関連した情報、意見など】

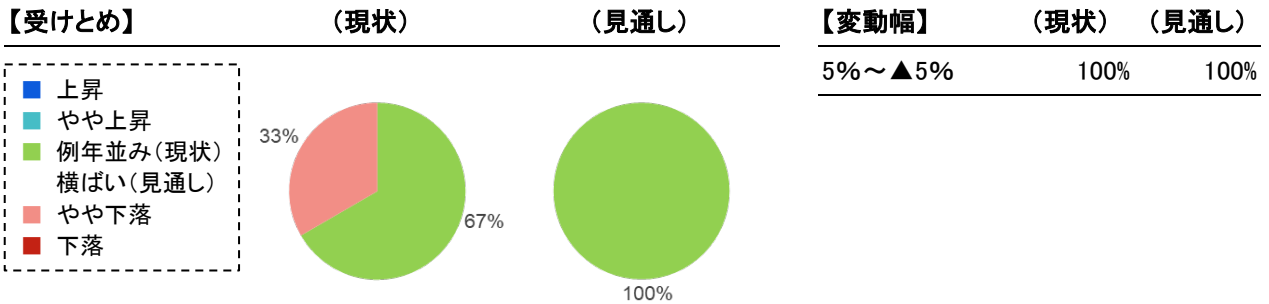
- 昨年4月以降丸太の出荷量の減少が続いたが、11月以降回復してきている。
- 合板・製材工場ともに原木使用量が回復してきたが、請負いが終了しても諸々の理由によりなかなか手山の伐採にかかれず、または出材が伸びない業者もいることから供給が追い付かない。また、この雪による影響が心配。
- 木材加工メーカーは、長期間減産を続けてきたため、原木在庫量も必要最低限の量に止めていた。11月より急激な需要回復に対応するため、各メーカーは減産体制から通常生産に戻したが原木在庫がなかったため、原木確保に苦戦した。

【今後の見通しに関連した情報(判断材料)、意見など】

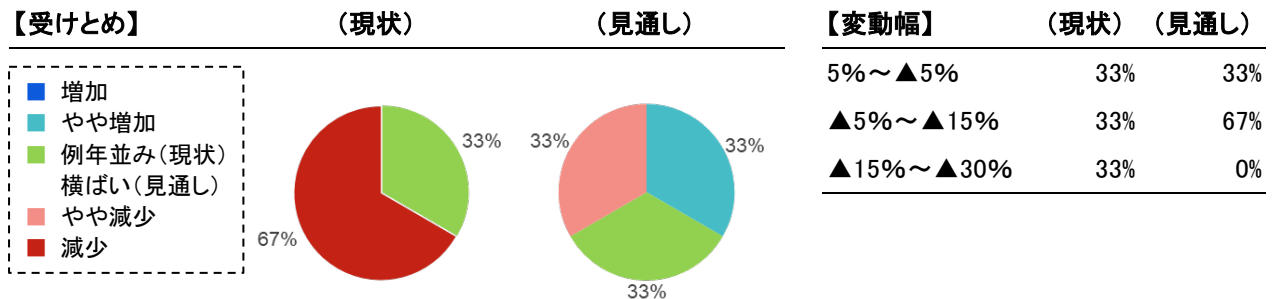
- 当初は原木不足状況も1月末には落ち着くかと思っていたが、春まで長引きそうな状況。ただし、合板製品は調達不安から仮需も発生しており、正確な情報が必要である。
- 「ウ 販売価格」については、元の価格より下がっているが、一番ひどい時よりは上がっている、ということでの回答である。
- 1月・2月は原木の不足感もあり、荷動きは活発になると思われるが、その先の見通しとしては、先行き不透明感もまだ感じられる。需要と供給のギャップから原木不足、製品不足の騒ぎになっている傾向もあり、急激な需要増は急激に減少することも考えられる。よって今後の木材製品の需要動向を日々確認する必要がある。

(4) 木材利用事業者(建設、製紙・パルプ、木質バイオマス発電)

① 国産材木材製品調達価格



② 国産材木材製品調達量



③ 出荷先やニーズの変化

【変化の有無】



【具体的な内容】

- コロナ禍による経済活動の落ち込みにより紙需要が大幅に減少したことを受け、製紙用チップの需要も減少した。

④ 関連情報、意見など

【現在の状況に関連した情報、意見など】

- チップ需要の落ち込みによる素材生産業者及びチップ業者への影響を緩和するためチップの一部をバイオマス発電に向け急場を凌いでいる。一方でこれによりチップの輸送距離が延び運賃負担が増えているチップ業者もあるので、支援が望まれる。

【今後の見通しに関連した情報(判断材料)、意見など】

- コロナ禍が収束しないことには経済活動も元には戻らないことから、紙需要も先行き不透明な状況が続くものと思われる。また、収束後もデジタル化の拡大により紙需要はコロナ前の水準には戻らない見方が大勢を占める。

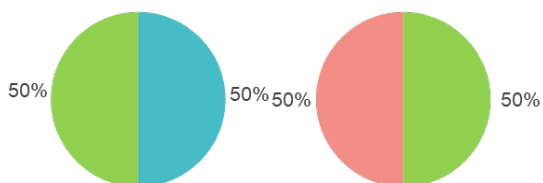
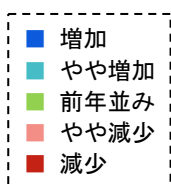
(5) 苗木生産事業者

① 苗木出荷量

【受けとめ】

(現状)^{※1}

(見通し)^{※2}



※1: 今年の秋植のための苗木出荷量
について前年同時期との比較

※2: 今年の春植のための苗木出荷量
について前年同時期との比較

② 関連情報、意見など

【現在の状況に関連した情報、意見など】

- 裸苗・コンテナ苗を生産。森林組合へ主に裸苗を、国有林へコンテナ苗を出荷している。
- 国有林の造林面積の増加による。

【今後の見通しに関連した情報(判断材料)、意見など】

- 作業員の確保。カラマツ種子の安定的な確保を判断材料としている。
- 主伐の減少により、再生林が減少している。

(6) 事業者団体(自ら生産・販売を行っていない場合)

① 例年と比べた団体及び団体会員の現況、現在の取組状況等

- 組合としては総会・理事会、研修会など人が集まるものは書面開催や縮小、中止とした。文字通り、組んで合うことがかなわず、情報交換や人的交流の場がなくなってしまった。一方、国・県のコロナ関連補正予算により、組合が担う事務事業が大幅に増加し、組合員以外への対応も含めて繁忙を来した。組合が主体となっている県産材の認証事業量は、昨年並みに回復しつつあり、木造戸建住宅の需要は底固いものがある。組合員は夏までは木材需要の大幅な減少に、厳しい経営環境となったが、秋以降徐々に需要が回復し、今後、年初の減収分をどれだけカバーできるかがカギとなっている。”
- 6月～7月に原木受入停止や減少した合板・集成材工場も9月には解消した。現在、素材生産量は例年並みで落ち着いている。ただし、価格は約5%減のみである。
- 組合及び組合員の現況に、ほとんど変化はない。国の新型コロナウイルス感染症対策の補正予算の「過剰木材在庫利用緊急対策事業」で13者17物件、「輸出原木保管緊急支援事業」では4者の事業が採択され、公共施設等における木材利用や原木の一部保管に係る経費を支援している。
- 当連合会は協同組合を会員とする連合会組織であるが、昨年は一団体が破綻し1団体が解散したほか、本年度末に更に1団体が解散を決議している。この結果、この5年間で会員協同組合は15団体から8団体に減少することになる。一方で、事業破綻を除いて、こうした動きは協同組合複数に加入していた工場が、加入する協同組合を1つに絞り込む動きと連動したものであり、当連合会を構成する協同組合数が減少しても、会員全体を構成している組合員工場は減少傾向にあるものの大きく減少はしていない。また、現時点では廃業等をした工場の販売ルートは、稼働工場が引き継いでいる模様で県内の製品出荷量に大きな落ち込みはない。

しかしながら、会員工場の減少がこのまま続けば、木材総合加工産地としての発展に影響が出ることが予測されるため、現在当連合会では、会員工場を対象として、原木の安定確保対策と非住宅分野での利用拡大及び製材品輸出に重点的に取り組んでいる。また、併せて会員向けの情報提供を目的とした当連合会のホームページの充実を図るとともに、産地PRを目的とした製品カタログ等の整備を急いで会員団体の営業支援の強化を図っている。

② 今後の見込み(令和3年1～3月)

- ますます、先行き不透明となり、組合が計画している事業も休止か中止の判断を迫られているが今年度はコロナ対策を第1にしていかなざるを得ない。組合員の経営は、本県木材需要の大宗を占める合板、製紙の需給動向に大きく左右されるが、コロナ以前の構造的な課題もあり中長期的に対応せざるを得ない。
- スギB材については、集成材工場が設備を強化したことから、やや増加。A材は住宅着工数が約1割減で推移していることと積雪期でもあり、減少する見込み。
- 首都圏を中心に緊急事態宣言が発出され、その影響について注視していく。
- 2回目の緊急事態宣言もあって、需要が回復傾向にあった木製品も影響は避けられないとみている。すでにイベントに使用する小割関係の需要に影響が出ているほか、本年の住宅着工数がどうなっていくかも懸念されるが、当県では3月までは地場需要が不需要期であり、各工場も生産調整を継続していることから、大きな変化はないものとみているが、原木確保もひっ迫しており、4月以降も影響が続くなら、事業継続を断念する工場も出てくるような深刻な状況となることも考えられるようになってきた。

(7) 森林整備センター 東北北海道整備局

現在の状況(令和2年12月末時点)

森林整備センターが実施する水源林造成事業は、分収造林契約方式で事業を実施しており、施業及び販売の実施にあたっては、契約相手方との協議を踏まえ実施している。

東北地区の森林整備センターについて、例年と比べた現況は、市場が受入制限を実施した地域において、生産を伴わない施業へ転換して実施している。

令和2年度水源林造成事業の販売見込み数量について、スギ及びアカマツ等約25,000 m³を予定していますが、国又は県等が木材の供給調整を実施した場合は関係機関の対応を踏まえ、主伐や搬出間伐の販売時期の見合わせや搬出期間の延期等に協力することとしている。

(8) 東北森林管理局

現在の原木需要は、製紙工場では依然として低水準で推移しているものの、合板工場をはじめとする製材工場等では段階的に回復傾向にあり、原木の引き合いが強まっている。また、一部の工場では原木の不足感がみられ、供給が追いついていないところも見受けられる。一方、製材品の需要動向については、まだ先行きが不透明な状況となっている。

このことから、現状では業種によって原木需要の回復に濃淡があり、今後の製材品の需要動向に注視していく必要がある。

東北森林管理局としては、これまで、契約済みの立木販売の搬出期間の無償延長、立木販売(原則、分収林除く)の公売延期、原木生産を伴わない森林整備事業の発注等の対応をしてきたが、地域ごとの市況の回復状況もふまえ、冬期間においても、一部樹材種の委託販売を実施。

2. 需給ギャップの解消について

(1) コロナ禍による影響^{*}について、事前にどのような情報があれば、小さくできたと考えるか
(※春の原木滞留、秋の原木不足など)

【業種】	【意見】
素材生産	<ul style="list-style-type: none">● 各製材所・合板工場等の<u>需要量の把握が早期にわかればある程度可能</u>と思われる。● <u>工場の納入制限・停止が突然すぎて生産調整が遅れてしまった</u>為、虫害材になってしまったので、<u>調整しながらの制限をお願いした</u>かった。● 今年の春先は、誰もが経験したことのない<u>コロナウイルス感染症の影響</u>で、対応が後手になったことは仕方がないと思っている。<u>受入数量の提示を可能な限り早くしていただきたい</u>と思っている。その提示により、チップ材主体の作業現場への切替も可能となる。● <u>需要に合わせた共有体制をとるには最低でも3ヶ月先(半年先が理想)の予定を見なければならぬ</u>。しかし、<u>今期は2週間先さえ分からない状況が続いた</u>ので、<u>需要と供給のバランスが崩れた</u>。また、生産者の生産意欲を低下するような状況や情報(工場の減産、受入価格の値下げなど)も多かったので、<u>全体の数量も抑え気味になった</u>。さらに、森林組合では生産から保育に仕事のボリュームを移行し、保育の苦手な素材業者が生産物を納めることが出来るよう、自分たちの生産を益々抑えて、保育で経営を維持できるよう努力してきた。<u>間伐や保育に手をかければ、途中で投げ出すことは難しく、急な需要に対応出来ない</u>ので、その事も需給ギャップに影響している。<u>今の状況が8月末から9月頭に予測できればこのような状況にはならなかったはず</u>である。● <u>長期間の原木保管を可能とする、原木の劣化(虫害)対策に関する情報</u>。
木材加工	<ul style="list-style-type: none">● <u>コロナ禍の影響を事前に正確に予測することは困難</u>と思う。● <u>どのような情報があったらということだが、それはなかなか難しい問題だ</u>と思う。弊社では<u>コロナ禍の影響によって製品需要がどの程度落ち込むのか全く予想がつかず、リーマンショックの際に原木在庫、製品在庫が膨らみ過ぎて失敗した経験から、在庫を持ち過ぎることに対しての危険意識が働き、早くから減産～生産調整を行ってきた</u>。結果として比較的早い段階で状況を抜け出してきたと考えている。● <u>合板・集成材問わず原木流通情報の早期入手</u>。● 昨年を振り返るとコロナ禍で3ヶ月先の情報を読みながら生産調整各社されたと思うが、<u>今まで経験したことが無い状況で切り替える判断が遅れたことが原因ではないか</u>。(製材の場合、原木調達から製品になるまで数か月かかるので、舵取りが難しい)正しい情報(市況など)がいち早く頂ければ幸いである。● <u>製紙会社の生産見通しと国産材の集荷計画の情報提供</u>● <u>大型製材工場や合板工場等、大量に原木を購入している工場の生産調整情報</u>● <u>木材加工事業者と原木生産者の現状と今後の予定を擦り合わせることで、需給のギャップを小さくできるのではないか</u>。
木材流通	<ul style="list-style-type: none">● <u>臨時の中間土場を設置し、原木を一時保管し、秋に需要の回復を見ながら出荷し対応した</u>。工場等の原木受け入れ制限の情報が早い段階でわかれば、対応しやすいと思う。

- 素材生産にはタイムラグがあり、月の途中で突然、納入をストップされる事があると滞留する原因となる。
川下の情報が川上に伝わらない。
- 今回のコロナ禍の影響による木材需給動向については、予測不可能な事態であり、事前に対策することは非常に難しいと感じる。
もし、木材需給が停滞する期間(原木受入制限の期間)や木材需給が回復する月(原木受入が通常に戻る月)などの事前情報を得られることができれば、原木滞留や原木不足の準備及び対策ができたと考える。
- 川下の木材需要に対して、川上の素材生産の動きが連動していない。必要な時に必要な原木を必要な量だけ伐っていない。
- 当組合のチップ製造業は、主として製紙用チップ及びバイオマス用チップの生産に努めて、原木の確保は、国有林材のシステム販売・委託販売及び各社の独自ルートにより確保しているところである。製紙用チップは以前より、製紙会社の事情(需要動向・為替等)により、変動があるものの、バイオマス用チップは電力需要が増している現状から、チップの受け入れが一定である。今春、国有林材がコロナ禍によって、生産調整がなされ減産されるのではないかとの情報が交錯し、業界の中では一時混乱した時期があった。それでも生産調整がなかったことから、秋から冬にかけてコロナ禍による原木不足の声は業界から出なかった。
- 特に合板工場の原木使用量の回復具合が山側へ大きな影響を与えるため、先々の製品の受注状況がわかれば秋の原木不足を小さくできたと思う。

木材利用

- 令和2年の春先は出材量の多い時期に緊急事態宣言で経済活動が大きく落ち込んだことが重なったこともあり、事前にかなる情報があったとしても需給ギャップが生じたことは不可避と思われる。一方で弊社では素材生産業者、チップ業者とのサプライチェーンを維持するため、チップ材については新たに置き場を確保して受入を行い、またチップについては製紙工場でのチップ在庫の積み増しや一部をバイオマス発電に向けるなどの対応を行ったことで影響を最小限にとどめられたと捉えている。

苗木生産

- 再造林計画の短期並びに長期計画の展望と計画的な伐採の実施
- 苗木生産のみで、他との接触がないので、今のところ影響は出ていない。

事業者団体

- 令和2年のこの時期に、令和2年の合板用原木の納入実績が令和元年対比で70%以下に落ち込むことを予測することは出来なかったと思っている。しかしながら、素材生産が早い段階から素材生産の停止などが続いたことで、製材業界は秋以降の製材用原木の不足を懸念していたものの、原木在庫を増やす工場が出ていたほか、その後には製材工場も生産調整が始まったことで、今後の原木供給の見極めは安易なものとなっていた。当連合会が県素流協と連携して実施してきた3.65m原木の伐採も中止しており、ここまで原木供給がタイトになる想定はできなかった。
現在、原木市場から原木供給を受けている製材工場の原木確保は、原木価格の急激な上昇に加え、量的確保が一段と厳しくなっている。
しかしながら、こうした状況を回避するため、どのような情報提供が有効で、リスク低減に結びついたのかは今後検証していく必要があります、現時点での回答は難しい。
- 最終的には、需要動向如何であり、今回の事態は避けがたかったのではないか。
- 早い時期の大型加工施設(集成材・合板・製材等)の生産計画変更情報。
- 大型製材工場や合板工場等、大量に原木を購入している工場の生産調整情報。

(2) 需給ギャップ解消のための提案・要望等

【業種】

【意見】

素材生産

- 「輸出原木保管等緊急支援事業」もあったが、夏季に合板や製材用の原木をストックする事は原木の劣化が激しい時期なので、合板・製材向けとしては利用出来ない。現在、緊急支援で貯めた原木を製材している工場は歩留まりの悪さに困っている。生産量を激減させず、急な原木需要に対応する為には、原木の価値が下がった価値を補てん出来る補助が必要と思う。生産量は一定で、価値は不安定なので、極端に不安定な部分を国で助けてもらいたい。そうすれば、コロナ渦であっても急な需要に対する準備をできる(行き先を変更するだけ)。
- 受け入れ可能数量を、遅くとも令和3年2月迄提示していただきたい。その提示により素材生産者は検討・対応していきたいと思っている。
- 需要に対応した工場等(輸出含む)への流通経費に対する助成をお願いしたい。
- 需要側と供給側の連絡体制の強化が必要と思われる。

木材加工

- 合板・集成材との原木流通の情報交換。
- 自社で持てる原木在庫には限界があるため、山元や流通で原木をストックできる体制を整えて頂けると助かる。
- 製紙会社は割高な輸出チップの更なる削減を図り、国産チップを増量しチップ生産者の活性化、地域林業振興に貢献されたい。
原木供給量を増量するため若年林業従事者を確保するための支援制度の充実をお願いしたい。
- 素材生産が原木受け入れ制限が掛かっても全面的に供給をやめてしまうことが無いような調整がどこかで(森林組合など)出来ると緩和されるのではないかと。
- 早めの情報提供
- 民間の木材需要拡大が見込めない状況で、国、地方公共団体による公共施設の木質化に期待したい。
- 予測不能な需要の変動に対応できるだけの一定量のストックヤードや仕組みが必要と思う。

木材流通

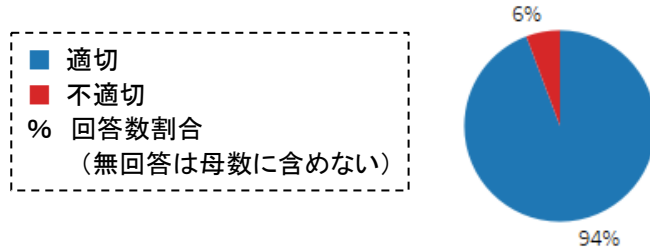
- 「輸出原木保管等緊急支援事業」が措置され大変助かった。今後も、市場の動向に臨機に対応できる助成制度があればよいと思う。
- 需給先の工場は2~3月先の納入量について確約して欲しい。
立木販売の搬出期間の無償延期。
- 各住宅会社やビルダーなどの向こう3か月くらいの最新受注情報の把握が必要。
- 原木の需給ギャップ解消のためには、下記の対策が可能であれば影響を小さくできたのではと考える。
 - ① 木材製品・原木の在庫量を極端に減らすことなく可能な限り増量で確保する。
(需給動向を周知させるための時間稼ぎと、需要が動き始めた際の需給調整のため)
 - ② 原木の備蓄は難しいが、各種製品の備蓄を政府主導で行う。
 - ③ 原木の出材について、民間の素材生産者は比較的早急な対応が可能だが、国有林の場合は出材の調整にタイムラグがある。国有林材は出材量もまとまるため原木の滞留や原木不足時の需給動向に与える影響が非常に大きい。もっと臨機応変な対応をお願いしたい。

	<ul style="list-style-type: none"> ● <u>情報の提供</u> ● <u>滞留した時に生産せずに造林等の作業を、不足した時に必要な原木を必要な量だけ生産する体制づくり。</u>
木材利用	<ul style="list-style-type: none"> ● <u>バイオマス発電事業の場合、燃料材の備蓄量を情報交換し合う環境があれば過不足が分かり、需給ギャップ解消につながるのではないか。</u> ● <u>結果論になるかもしれないが、上記(1)の対応を行ったことにより、春先に比べて需要が回復した現在は在庫していた原木・チップが役立っている。しかし、原木在庫を持つことで資金繰りの悪化や横持ちの費用負担が発生している。国では「輸出原木保管等緊急支援事業」で一時保管に関わる助成を行っていたが、自社で使用する原木を買い取って保管する場合は助成対象とはなっておらず、弊社での対応は対象外となった。需給ギャップの緩和につながった弊社のような対応も今後は支援対象としていただきたい。</u>
苗木生産	<ul style="list-style-type: none"> ● <u>再造林計画の確実な実施</u> ● <u>造林事業に影響がない限り、苗木生産を継続できる。</u>
事業者団体	<ul style="list-style-type: none"> ● <u>スギ原木が国際商品と呼ばれるようになってから大分時間が経過している。また、コロナ禍で一時低迷した原木輸出も中国向けは以前の輸出水準まで戻りつつあり、価格の上昇も見られている。これは、中国は国内消費は減少している模様だが、北米向けのフェンス材輸出が好調となっていることが要因だと考えている。こうした流通が伸びたのは、商品価格が四半期ごとに決定されることや、大ロットで購入数量を明示した取引となっていることで、素材生産者は安心して原木生産を行うことができるためとみている。</u> <u>一方、国内向けは、いまだ原木は市況商品からの脱出ができておらず、取引量も少量分散型となっているほか、取引ごとに単価や数量の決定される場合が多いことで、需給ギャップの対応は非弾力的な状況が続いている。</u> <u>また、素材生産は一般的に伐採のための準備期間入れると、伐採から原木の供給までには3か月ほど時間を要することで、原木供給の弾力的な対応には限界もある。</u> <u>個別工場単位の需給ギャップへの対応は、これまで原木市場がそのストック機能を果たしてきたが、近年は山元直送が進展している中で、大きな需給ギャップへの対応は難しくなっている。</u> <u>コロナ禍に限定される話ではないが、基本的に原木確保は製材工場の責任で行うべきと考えているものの、当連合会としては大きな需給ギャップなどの発生も視野に入れて、個別工場の対応が困難な場合などを想定して、関係業界間の連携強化への取り組みを進めている。</u> <u>このようなことから、ギャップの解消に向け、加工側として年間の原木必要量、必要径級・長さなどを素材側に明示するとともに、生産された素材は全量買い取る仕組みを急いでおり、こうした取組には、素材生産者の一方的な生産リスク負担を緩和するためにも、工場ごとに違う原木の受入基準を製材業界で統一することが急がれるが、そうした取組の実現には時間が必要である。</u> ● <u>需給は市場に委ねるほかなく、ストックとしての製品、原木、立木を考えた場合、立木が合理的であり、樹木伐採権など山側のストック機能を果たす新たな制度、システムを考えていく必要がある。</u> ● <u>大型加工施設の在庫量の拡大(2~3か月分は在庫してほしい)</u> ● <u>民間の木材需要拡大が見込めない状況で、国、地方公共団体による公共施設の木質化に期待したい。</u>

3. 協議会の活動について

(1) 開催の頻度・タイミング

【適否】

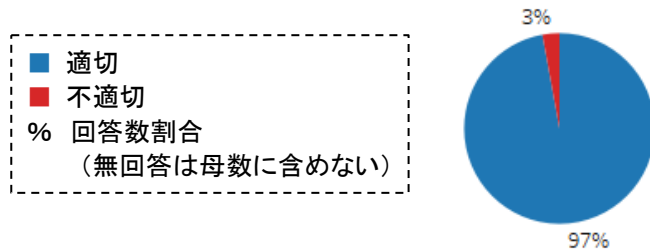


【業種】 【意見】

素材生産 ● (不適切と回答)3~4回(春夏秋冬)

(2) 情報提供の内容(国からの木材需給動向・支援策、構成員からの需給情報等)

【適否】



【業種】 【意見】

素材生産 ● (適切と回答)価格の動向は少々参考にしづらい。合板・集成・構造材・羽柄材・化粧材など、用途別に原木価格推移をまとめた方が林産事業の参考になると思う。少し内容が細かすぎるように感じる所もあるが、ここまでまとめるのは大変だったかと思う。敬意を表する。

木材流通 ● (不適切と回答)各住宅会社やビルダーなどの向こう3か月くらいの最新受注情報もあればなお有難い。

(3) 協議会活動に関する意見(どうすればより役立つ協議会となるか、など)

【業種】 【意見】

素材生産 ● リアルタイムに近い情報発信。
● 情報の収集役割を、今後も期待している。

木材流通 ● ①業種ごとに組織・事業体を選定して情報収集する方法は、業界と行政にとっては情報共有の良い機会となっている。

②地区構成員の意見を反映しつつ今後の方向性を示した座長コメントは、自身の地区だけでなく他地区の状況を知るうえで非常に参考になった。今後も座長コメントの一層の充実を望む。

③併せて、構成員や座長から寄せられた要望やコメントに対する林野庁の回答も構成員にいち早く開示していただきたい。国としての見解や政策の方向性等を情報として提供してもらえれば、構成員として協議会に協力してよかったと思える。

- コロナ禍において、リモート・WEB で会議などが出来れば参加しやすくなると思う。

事業者団体

- 事前に業種ごとの意見調整を行わないと意見の集約が難しいのではと思っている。協議会開催前に各業界の意見集約のために、業種ごとに分科会のようなものが必要と思う。
- 人数が多すぎるので、北東北と南東北、又は供給側と需要側に分けて開催してはどうか。木材関連業者と東北6県だとこの人数になってしまうので。
- 輸出も検討課題の1つとしてはどうか。

県

- 今年度は、新型コロナウイルス感染症まん延防止のため書面開催とせざるを得ない状況ではあるが、木材の需給情報について双方向の意見交換が必要であることから、集合方式による開催が望ましい。

(4) 支部別協議会(又は類似の会議)の令和2年度4月以降の開催情報

【県】

【開催状況、概要等】

青森県

- 開催していない。

岩手県

- 県産木材供給連絡会議を平成 27 年度に設置し、継続的に県産木材の需給に係る情報の共有を行っている。
【令和2年度の開催状況】
第1回連絡会議(4/22)
第2回連絡会議(6/12)
第3回連絡会議(7/28)
第4回連絡会議(9/24)
第5回連絡会議(11/17)

宮城県

- 支部別協議会ではないが、令和2年7月9日に素材生産関連団体及び行政機関等により新型コロナウイルスに係る意見交換会を実施。

秋田県

- 令和2年7月7日に秋田県木材需給情報連絡会議を開催した。内容は以下のとおり。
 - ・中央需給情報連絡協議会の資料を含む国や県の支援の情報提供と情報の共有
 - ・参加団体、企業等からの情報提供と意見交換 など
- 上記以降は開催していないが、県の8地域振興局が川上・川中・川下の情報収集を、4月から隔週で月2回程度の定期報告として実施し、現在も継続しており、大きな変化があれば必要に応じて開催する考え。

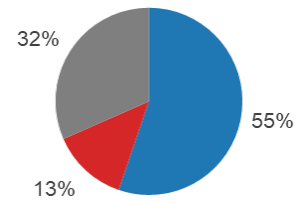
山形県

- 開催の予定はないが、適宜、団体との意見交換を実施して情報交換を行うこととしている。

(5) オンライン回答(Google Forms を使用)の使い勝手

【使い勝手】

- オンラインの方が、Excel ファイルや紙よりも回答しやすかったので今後も活用してほしい
 - オンライン回答したが、Excel ファイルや紙の方が回答しやすい
 - その他(どちらでもよい、Excel 回答)
- % 回答数割合



【意見】

(特になし)